

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立庚午中学校	校長氏名	渡邊 俊二	生徒指導主事氏名	藤井 麻里
取組事例名 『体育祭』					
取組のねらい『キーワード ピア・サポート』					
「ピア・サポート」とは、異年齢が関わり相互支援の体制をつくるものである。上級生がリーダーとして下級生を導き、繋がり、互いに力を合わせる取組を具体的に作り出す。					
取組の具体的内容『キーワード 体育祭—きずな』					
① 体育祭の競技種目は学年種目と縦割りの団体種目を実施している。縦割種目は、玉入れ、ボール運び、色別リレー、山超え谷超え、がある。縦割種目の練習は時間を一斉に取り、上級生が下級生に声をかけ、合同で練習し取り組んでいる。また、放課後練習も色別（縦割り学級）で実施し、体育祭実行委員が学年を超え、協力体制をつくり進めている。 ② 全員ジャンプ（長縄）、学級全員リレーは学級全員で作戦を立てクラス全員で練習をする。 ③ 体育祭実行委員会、各係会も全学年の係が運営する。 ④ 体育祭の応援を色別に行い、同級生同士の連携、縦割りの連携をする。					
取組の課題・創意工夫『キーワード 年間通して』					
体育祭だけでなく、年間を通し行事に「ピアサポート」を盛り込む。（入学式、合唱祭、体育祭、卒業式など） ① 入学式→入学を祝う装飾をする。入学式後、新入生の教室に 3 年生有志が行き学級開きを行う。新入生のエンカウンターと学校紹介をする。和やかな雰囲気を新入生や保護者が感じ、お互いを知るきっかけをつくる。 ② 合唱祭→学年交流だけでなく、縦割り交流をし、高め合う。（メッセージ交換） ③ 体育祭→縦割りで取り組む。 ④ 卒業式→卒業式装飾を縦割りクラスが受け持ち行う。「さくらメッセージ」を贈る。巣立つ思いを後輩に残し、伝統の継承を託す。 ⑤ 小中連携→オープンスクール、小学校に行つての挨拶運動もピアサポート交流。					
取組の成果（効果）『キーワード 連帯』					
① 上級性の存在が頼もしい存在、また見本となる存在となり、下級生の目標となっている。 ② 体育祭を中心に、年度初めから、生徒の交流を組織的に行っている。特に体育祭での縦割り練習や応援は、上級性の意識を高め、学校の連帯を生む効果がある。また、行事を通して、集団生活のなかでの決まりを守り他者を尊重する態度や心を育てる効果がある。					
今後の展開『キーワード 日常活動』					
行事だけでなく、継続した日常の取組につなげていく。					
他校へのアドバイス『キーワード 始まり』					
入学式のピアサポートが新入生だけでなく保護者の安心感につながっている。新入生歓迎の取組をする中で、先輩になった自覚と緊張感が生まれ、自己肯定感が高まり、新年度の良いスタートがきれている。					

